

## 平成 29 年 1 月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時 平成 29 年 1 月 24 日(火) 午後 1 時 30 分

場 所 市庁本館 3 階 議会第 1 委員会室

教育委員職氏名	教育委員長	武 輪 節 子
	教育委員長職務代行者	築 瀬 眞知雄
	教育委員	油 川 育 子
	教育委員	大 庭 文 武
	教育長	伊 藤 博 章

事務局員職氏名	教育部長	佐 藤 浩 志
	教育部次長兼教育総務課長	野 田 祐 子
	図書館長	藤 田 俊 雄
	学校教育課長	小笠原 徹
	教育指導課	木 村 一 夫
	社会教育課長	田 中 勉
	是川縄文館副館長	清 川 定 吉
	総合教育センター所長	原 寿
	博物館館長	古 里 淳
	教育総務課参事	玉 井 由 朗
	是川縄文館参事	宇 部 則 保
	是川縄文館参事	村 木 淳
	西地区給食センター所長	川 口 晃 司

## 開 会

(武輪委員長)

定刻となりましたので、平成29年1月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、大庭委員さんを指定します。

それでは教育長から、主な会議・行事等について、説明をお願いします。

## 主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

(武輪委員長)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第1号「八戸市社会教育委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

## 議案第1号 八戸市社会教育委員の委嘱について

(田中 社会教育課長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

(武輪委員長)

それでは、議案第1号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

(武輪委員長)

ご異議がありませんので、議案第1号を原案のとおり決定します。

次に、議案第2号「八戸市学校給食条例の一部を改正する条例の制定について」事務局から説明をお願いします。

## 議案第2号 八戸市学校給食条例の一部を改正する条例の制定について

(小笠原 学校教育課長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

私から1つお聞きしたいことがございます。

資料の8ページ、9ページに新旧対照表がございませう。北地区給食センターの場所が石堂三丁目にありますが、私が疑問に思ったのが、単純に給食センターの場所に近いところが運搬距離も短く、時間や燃料費等においても経済的ではないかと思ひました。具体的にこのような形で再編された理由をお聞かせください。

各給食センターでつくることのできる可能な最大食数もお聞きしたいと思ひます。

(宗石 学校教育課GL)

学校給食グループリーダーの宗石と申します。

新西地区給食センターから提供可能な食数が約1万食となっております。最新設備が整っている、新西地区給食センターで優先的に作って供給をしたいという理由から再編しました。今までは、約5千食から7千食を既存の各給食センターは供給しておりました。委員長がお気付きになられたとおり、再編した区分の学校では、北地区給食センターのほうが場所的に近いのではないかとありますが、配送はなるべくまとまった地区で選んでおります。

新方式になりますと、ご飯の提供方法が変わり、お茶碗が増える等ということもありますので、約5千食ということになります。現在は7千食を提供しておりますけれども、食器を乾かすコンテナや、収納庫というもので決められた設備の中で収納していますので、新年度は、最大可能数というものも減りまして約5千食前後となります。

(武輪委員長)

ありがとうございました。

今の対象校に関しても、やはり中学校区の形での編成になると思ひますので、例えば、同じ下長小学校と下長中学校はその日メニューが違うということを考えて、中学校区での編成も考えての割り振りと考えてよろしいですか。

(宗石 学校教育課GL)

献立については、新センターと旧センターの設備が違うということから、2種類の献立となります。新センターでは小学校と中学校で同じ献立でも曜日を組み替えて対応いたします。小学校と中学校の数が違いますので、小学校の一部は中学校と同じ曜日と割り振りで、ほぼ半分ずつに分けられるという形になります。

(武輪委員長)

ありがとうございます。

それでは、議案第2号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

(武輪委員長)

ご異議がありませんので、議案第2号を原案のとおり決定します。

次に、議案第3号「八戸市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について」事務局から説明をお願いします。

### 議案第3号 八戸市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

(原 総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

(武輪委員長)

それでは、議案第3号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

(武輪委員長)

ご異議がありませんので、議案第3号を原案のとおり決定します。

次に、議案第4号「八戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」事務局から説明をお願いします。

### 議案第4号 八戸市公民館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

(田中 社会教育課長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

(武輪委員長)

それでは、議案第4号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

(武輪委員長)

ご異議がありませんので、議案第4号を原案のとおり決定します。

次に、報告事項に参ります。初めに「平成28年度第3四半期の業務報告について」は、事前に資料が配付されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたらお願いいたします。

## 【平成28年度第3四半期の業務報告について（質疑応答）】

（大庭委員）

それでは3点ほど質問と意見等を述べさせていただきます。

まず1点目、教育指導課の地域密着型教育推進事業についてです。この事業は市教委の中心的な施策になっています。関連してコーディネーター研修会が行われたということで、コーディネーターの取り組みの課題についての分科会を実施しているとのことですが、教育委員としては、コーディネーターの果たす役割には非常に大きなものがあると認識しております。

ここで取り上げられた課題についてとありますが、どういう課題が取り上げられたのか、それから、現時点でその課題に対しての対応策があるのかどうかなど、お聞かせいただければと思います。

（三角 教育指導課GL）

教育指導課の三角と申します。

コーディネーター研修会の内容について、今コーディネーターの方々からの課題で、まずは「ボランティアをもう少し増やしたい」というボランティア募集について、そして、「たくさんの方に呼び掛けるためにどのような取り組みをしているか」という学校との連携など、コーディネーターになって1年目、2年目の年数が浅い方々が様々な面で悩んでおります。PTA活動や学校での取り組みで、どのようにして学校の中で連絡を取っているのか。または、コーディネーターの方々の実際の仕事の中身についても、1年目の方々はまだわからない部分がありましたので、今回の研修では年数を重ねている方と、浅い方々がグループを組んで、その中で情報交換をしながら、様々な課題について話し合っています。

これからについては、学校の中でもPTA活動とボランティア活動、学校での活動というところがうまく連携が取れるようにというのが、コーディネーターの方々にとって大きな課題のようです。今後、学校にもお願いしながら、共通理解していかなければならないと思っております。以上です。

（大庭委員）

ありがとうございます。今のお話にもあったように、経験年数を重ねている方と浅い方も含めて、研修会等で情報提供、情報交換しながら関係機関とも連携していくということが大事だと思っております。コーディネーターの育成に今後も協力していただければと思います。

次に、マイブック推進事業についてです。「様々な背景を持つ児童及び保護者がいるため、趣旨及び使用の徹底については難しい面もある」というところで、これまでも学校の取り組み等を通して、クーポンの使用率を上げる取り組みがされてきていると思います。本当に学校の現場の先生方もいろいろ苦勞されているだろうと思います。指導主事の先生方も、書店等いろいろ回りながら、情報収集して苦勞されているだろうと思います。「様々な背景を持つ児童及び保護者がいる」という部分についてですが、制度や事業そのものに対する不満なのか、それとも、実生活上で保護者と一緒に児童が書店に行けないなどの、具体的な生活上の問題であるのか、お聞きしたいと思います。

（木村 教育指導課長）

事業がスタートした年度に比べれば、各学校から子供たち、保護者への使用を呼び掛ける広報などは、

本当にきめ細かに行われております。そのためクーポン使用率は上がりました。クーポンを1枚も使っていない子どもについては、学校からの呼び掛け等あるのですが、「なかなか子どもと一緒に連れて行けない」、「クーポンを使う時間が取れない家庭が多い」などと学校訪問を通して聞いております。また、この事業に対する要望につきましては、「もっといろんな種類の本を買いたい」など、いろいろな要望はありますが、事業そのものについて反対で使わないという意見はないということです。以上です。

(大庭委員)

ありがとうございました。マイブック推進事業については周知されてきて、好意的な意見が多いように思っております。そのため、やはり「様々な背景」とは、実生活の面で子どもと一緒に書店に行けないという事情のように思われます。保護者と一緒に書店に行けないという子どもにも本を手にとってほしいということが私の思いです。確かに、様々な事業がありますので対応することは大変だと思いますが、クーポンを使えない子どもにも自分の本が選べるようになってほしいという思いで話をしました。

3点目ですが、質問というよりは感想です。15ページにある総合教育センターの、教育相談、適応指導教室事業の相談状況についてです。相談数が増え、前年比1.2倍とあります。そして、主な内容は不登校、発達行動に関わる相談と記載されてあります。最近の新聞報道等で、全国的に30代、40代、50代も含めて引きこもりが増えているという状況が報道されておりました。そのような状況になると本人はもちろん、保護者も大変な生活上の負担になってくると思います。保護者も年若い、自分の子どもが30代、40代、50代で引きこもると、悲惨な状況になると想像されます。社会人になっても引きこもりが継続することを防ぐためにも、小学校や中学校の初期段階で、引きこもりになりそうと思われる不登校の児童生徒がいた場合、早期に対応して社会に適応できるようにしていくということが必要であると思います。実際、高校を卒業した生徒の中にも、卒業した途端に引きこもりになってしまうケースや、不登校が継続してそのまま引きこもりになり、成人してからも引きこもりの状態が続くというケースがあると感じております。相談件数が増えて、対応が難しいこともあるかと思いますが、いま取り組まれている小中学生の不登校や相談など、将来の長い目を見たときに、初期段階での対応が必要なのだという思いで頑張っていただければと思っております。以上です。

(原 総合教育センター所長)

不登校などの相談についてご意見をいただき、ありがとうございました。

不登校児童生徒に関わる相談が、第3四半期で337件ということですが、丁寧に保護者の方、それから児童生徒本人についても行っている結果、前年に比べて増えていると感じております。また、不登校の児童生徒が八戸中央高校へ進学するというケースが少なくないことから、八戸中央高校の校長先生とも情報共有しているところであります。スクールソーシャルワーカーが入ったケースは、その後非常に関係機関とつながっていくということで、その重要性ということも八戸中央高校との情報共有の中から感じているところであります。こども支援センターでの相談が福祉の関係機関などにつながっていくという結果で、スクールソーシャルワーカーが市全体の中で相談の組織的な連携ということでは今後ますます大事になるのかと考えております。次年度からの予算はまだ確定していないわけですが、市としてもスクールソーシャルワーカーの配置を進めていくことが、引きこもりを未然に防ぐことにつながっていくと考えております。以上であります。

(大庭委員)

今お話しに出た八戸中央高校の校長先生も、不登校等で悩んでいる生徒を受け入れるということに非常に前向きで、今後も関係機関とのつながりをうまく利用していただければと思います。特に、八戸中央高校の校長先生は、入学してくる生徒が今までと環境が変わり、自ら進学や就職の意欲を示して、どんどん良い方向へ生徒が変わっていくということで非常にうれしいということをお話されています。八戸中央高校やその他の関係機関も含めて、不登校等の問題が改善されていくことが、これからも継続していただければいいのかと思います。

(武輪委員長)

ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

(油川委員)

5ページの幼保小連携推進事業についてお聞きします。各小学校において実施される就学時健診において、就学児保護者向けパンフレットを配布とありますが、以前、夏休み前に配布ということでしたが、幼稚園にも保育園にも通っていない子ども達のことを配慮してこの時期ということではよろしいでしょうか。

(佐々木義智 教育指導課主任指導主事)

幼保小連携事業を担当しております、教育指導課の佐々木です。

油川委員のおっしゃるとおり、6月頃に配布の場合は就学前の各施設に通われている家庭に届くのですが、各施設に通われていない子ども達用に小学校へ来たときに受付で確認して渡しています。

(油川委員)

わかりました。ありがとうございます。

(武輪委員長)

私からお願いと質問をさせていただきたいと思います。

6ページの学校図書館支援事業のところですが、学校図書館運営講習会として、初めて学校図書館を担当する教員に対して担当主任指導主事が該当校に赴いて助言したとあります。学校図書館に対しての役割や、地域住民、保護者からの期待というものが大変大きくなっていると思います。学校図書館の運営に関して、ちょっとしたアドバイスでも結構ですので、各学校の図書館が充実することを願っております。各学校において図書館の格差がないようお願いしたいと思っております。

質問です。8ページの青少年指導者養成講座についてです。青少年関係団体の指導者及び育成者等の知識、技能の向上を目的として開催とありますが、小中学校の部活動の指導者の方々を対象と考えてよろしいのでしょうか。

(木村 教育指導課長)

参加者の中には、小学校の部活動の担当者もいらっしゃいますが、それだけではなくて学童を担当している方など、広く子どもたちに携わる人が各関係団体から参加されています。以上です。

(武輪委員長)

ちなみに参加者は何名くらいで、具体的にどのような内容でお話しされたかということをお聞きしてもよろしいですか。

(田中 教育指導課GL)

担当の田中と申します。

参加者は50人程度でした。各団体の方がいらっしゃって、子どもとのコミュニケーションの取り方などを大学の先生からご教授をいただきました。

(武輪委員長)

ありがとうございます。

それでは次の報告事項にうつります。「平成28年度第4四半期の主な事業予定について」委員の皆さんから質問がありましたら、お願いします。

#### 【平成28年度第4四半期の主な事業予定について（質疑応答）】

(築瀬委員)

「教育の広場はちのへ」についてです。感想程度になるのですが何点か述べたいと思っています。

1点目は、ステージ部門では子どもの活動を中心に組み立てたということを感じて強調しておられました。学校教育の根本は子ども中心ですので、この活動が保護者や学校関係者にも今までより伝わったような気がしてよかったですと思います。

2点目は、子どもたちの活動の様子ができるだけ具体的にわかるようにということがよく出ていたと思っています。ジャズバンドや、バトントワリングといった活動紹介が受動的なものよりも、能動的な教育の広場になったような気がしています。会場の外を見ている、ガラス越しに歩いている人たちが、興味を持って寄ってくるというところもありました。2階、3階まで観客がいらっしゃいました。やはり会場内や、三日町通りにも効果を表していると感じました。これからも、社会教育課で担当している各学校の郷土芸能活動の発表なども紹介できれば非常にいいと思って期待をしております。

3点目は、ALTの発表についてです。市民の方はALTについてあまり馴染みがないと思います。学校にいるからこそALTとはなにかわかるのであって、今回の催しはALTのことがよくわからない方も、八戸の教育の裾野の広さを感じたのではないかと感じてとてもよかったですと思います。

4点目は、最優秀広報誌の展示と、三浦哲郎少年少女作品賞受賞作品のリーフレットについてです。今回初めての試みということで、どのような内容なのか具体的にわかる資料が手元に残るといったことは非常に大事だと思っていました。市民にも細かな配慮として事務局や学校現場の方々の努力が目に見えて伝わり、教育への信頼感につながると感じています。

5点目ですが、以前私から希望を出していた2回目のリーフレットにはもう少し具体的に詳細な内容を記載するということができたのですが、そのとおりに改善されておりとてもよかったです。希望としてはもう少し早い段階で、より具体的なものを出すということも大事かと思っています。学校内での取り組みだ



けでは非常に限りがあると思うので、様々な関係機関へもきちんと説明して取り組みをしっかりと行っていたきたいという気持ちです。各町内会への呼び掛けも無理してということではないのですが、可能な範囲でやっていってもらえればという希望です。

6点目ですが、考えていただければありがたいと思っているのは、以前からお話ししているブックリサイクルフェアについてです。ステージ部門とタイムスケジュールが一緒ですので、30分でも時間をずらして、少し本を見てからステージ部門に行けるようなことがあれば少しうれしいと思いました。

7点目です。アナウンスでもありましたが、2階で中学校の生徒の美術展をやっていますという呼び掛けがありました。「教育の広場はちのへ」を単独で考えるのではなくて、教育指導課が主担ですが、教育委員会全体で取り組んでいるということですので、各学校の教育研究会や、はっちのイベントの予定と組み合わせ、関連したはっち内での行事になればもっと効果的に市民の方も集まってくれるのかと思いました。大変努力されている様子がわかって、気持ちが伝わってきた「教育の広場はちのへ」だったと思っています。ありがとうございます。

話は変わりますが、6ページの防災ノートの活用事例についてです。事業予定では二訂版の完成を目指すと書いていますが、業務報告には既に研修会と聞き取りを行い原稿の作成をしたとありました。今回はどういった点を特徴として改訂したのかお知らせいただければありがたいと思います。

(沼館 教育指導課主任指導主事)

防災ノート担当の沼館です。

研修会の際に各学校の先生方から様々なご意見をいただきました。その際に非常に多かったのは、台風のことについては是非触れてほしいという内容のご意見がたくさんありました。研究委員やアドバイスいただいている八戸工業大学の先生からも強風の際の備え、大雨、土砂災害といったものにぜひ触れてほしいということで、ページの作成に取り掛かっている次第でございます。以上です。

(築瀬委員)

ありがとうございました。適宜、今回のような追加というものは大事だと思っています。それと同時に、学校の中だけではなくて、家庭での話し合いや、地域とも連携しながら、有効に活用できればいいと期待しています。

(大庭委員)

私も築瀬委員と同じく、はっちで行われた「教育の広場はちのへ」についての感想です。

今回は講演等をなくして、1日日程の中でできるだけ生徒中心にという方向性で行われ、よかったと思います。特にステージ部門では合唱や、ジャズバンド演奏、バトンなど、一般の市民の方にも見ていただくいい機会であったと思っています。また交流事業や、弁論、研究発表等も大変充実したものであったと思います。特に研究発表では、発展性のある発表があり、オープンな場で発表するというプレゼンテーション能力を育成していくという上でも子どもたちには本当によい経験の場であったと思います。

次に展示部門です。「我が校自慢」のスペースは各学校で工夫して、本当にわかりやすい展示になっていたと思います。中には自分の学校だけではなく、一生懸命いろんな学校の「我が校自慢」を撮影している方もいました。自分の学校だけでなく、他の学校を知る機会になっていたと思います。

教育施策の紹介部分では、田代小中学校にスポットを当てた掲示もありまして、もし田代小中学校の関係の方がいればうれしかったのではないかと思います。

それから、自由にお取りくださいということで、インターネットトラブル防止リーフレットが置いてありました。リーフレットは結構な部数が用意されていたとのことでしたが、私が尋ねた時点では半分くらい無くなっていたということで、市民の方がお取りになっていかれたと思います。保護者の方はリーフレットを見る機会があるかと思いますが、一般の方には目に触れないものの1つかと思ったので、今回のような場で周知することはよかったですのではないかと思います。もし、今後も続けるのであれば、先ほど築瀬委員からもありました防災ノートなども展示すれば教育施策の一端を市民の方にも理解してもらえることにもなるのではないかと感じました。

今このようなお話をさせていただいたのは、閉会セレモニーの主催者あいさつの中で木村課長から3年間実施して、今後のことについてはいろいろ検討を加えていくという話がありました。委員としてまた一市民として、今まで3回の中で「しんか」、「進んでいく」と「深まっていく」両方達成されているという思いがあるので、何とか続けていただければいいという思いで今お話をしました。

あと、印象的だったのは三浦哲郎青少年少女作品賞の表彰式の場面です。前回の定例会でもお話ししたのですが、学校の中で子どもたちに校長先生から賞状を手渡すという場面は、各学校で行われていると思いますが、今回のようなオープンな一般市民も見守る中で手渡しし、最後は指導した先生や、保護者と一緒に写真撮影を行ったりと、非常に微笑ましい光景がありました。児童生徒の活動を紹介しながら、保護者、市民が関わっていくという場は、会場の設営、人手、経費などいろいろ苦労はあるかと思いますが、何とか継続していただければという意味で述べさせていただきました。以上です。

(武輪委員長)

ありがとうございました。「教育の広場はちのへ」について具体的な感想、要望、アドバイスをたくさん頂戴しましたので、また来年開催されるようであれば生かしていただきたいと思います。

(油川委員)

私からも教育の広場について少しお話しさせていただきたいと思います。ステージ部門は子どもたちの主体的に取り組んでいる姿勢というものが伝わってきて、とてもよかったです。

また、展示部門も工夫をされていましたので、とてもわかりやすく、どちらもとてもよかったです。

前回の定例会でもお話しさせていただいたのですが、これは幼保小連携推進事業の1つにもとらえられると私は思いました。当園のことを申し上げて恐縮なのですが、当園の年長児の保護者全員に「教育の広場はちのへ」のチラシを印刷して配りましたところ、数名の園児が家族の皆さんと一緒にいらしていました。そのお母さんの話だったのですが、展示部門の「我が校自慢」のパネルを子どもが見ていて、自分が進学する先の学校を一生懸命探して、そして見つけたときにはすごくうれしくて、そのパネルの前で踊りだしたということで、この子はほとんど小学校に行った気分であるのですということでした。こういった1つ1つの体験が小学校への憧れであったり、期待というものを膨らませてくれると思いました。大変なご苦労があるかと思いますが、幼保小連携推進事業の一環にもなるのかと思ひまして、もし来年も開催していただくのであれば、もっと広く年長児に周知をしていきたいと思ひました。

少し質問なのですが、我が校自慢」パネルは、他の場所でも展示をしているのでしょうか。この

教育の広場のみになりますでしょうか。

(木村 教育指導課長)

今回の「教育の広場はちのへ」のみです。

(油川委員)

「教育の広場はちのへ」のみですと、とてももったいないと思ひまして、中学生のパネルは小学校6年生に、小学校のパネルは年長の子どもたち、5歳児、6歳児に見せたいと思うのです。例えば、市役所のロビーに期間限定で展示したり、このパネルをつくっている生徒の皆さんで見合うということも、とても大事だと思ひます。各学校では掲示をなさると思ひますが、その学校を越えた形で展示ということもいいのかと思ひましたので、ご検討いただけたらうれしく思ひます。

この日のために小学校、中学校、それから教育委員会の皆様方は大変ご苦勞をなさったと思ひます。ありがとうございました。以上です。

(武輪委員長)

ありがとうございました。

私から1点お聞きします。5ページなのですが、学校図書館支援事業のところでは、3月下旬、5日間にわたって白山台小学校の図書移動に係る活動を行う予定であるとあります。こちらは、西白山台小学校に白山台小学校から図書の移動を行うということでしょうか。

(佐々木宏恵 教育指導課主任指導主事)

教育指導課の佐々木です。

白山台小学校は現在、当初図書室であった場所を普通の教室として使っていますので、今回分離にあたり、今は2階のホールが図書室という扱いになっています。図書室が本来の図書室に戻るであろうということですので、ホールにある本を本来の図書室となる場所に移動するという事です。最終の5日間でそのような移動作業を白山台小学校内で行うということになります。

(木村 教育指導課長)

補足します。西白山台小学校につきましては、白山台小学校からの財産分与といひますか、お下がりといひますか、それだとやはり厳しいといひますので、今年度確保している予算でできるだけ多くの備品等を準備して、4月には入れる予定であります。それから何年間かの計画で、徐々に西白山台小学校の備品等は増やしていきたいと思ひます。

(武輪委員長)

ありがとうございます。これから西白山台小学校が新設されるわけですが、新設校であっても今までどこかの学校で使っていたもの、または閉校になった学校で使わなくなったものを西白山台小学校で再利用して使うといひことが行われる予定があるのか、全てのものに関して新しく購入して、全てのものが新し

くなっていくのか、お聞かせください。

(野田 次長兼教育総務課長)

例えば机、椅子などの使えるものについては白山台小学校から西白山台小学校に移動する予定でございます。ただ、それだけでは不足するというものがありますので、その部分については購入する予定です。

基本的に備品等につきまして、使えるものがあるかどうかということで、西白山台小学校に持っていけるものがあるかどうかということは、白山台小学校の先生にお聞きして調査をしていただくこととなります。開校してから年数が経っておりますので、かなり備品自体も古くなってきているということで、それをそのまま持っていけるほど甘くないだろうということはお聞きしています。基本的なものについては購入し、椅子や机といったもので、使えるものについては持って行って使うという考え方をしているところでございました。

これまでに閉校した学校の備品等については、市内の各小中学校で希望をとりまして、使える状態のものについては既に分配しているという状況があります。そこから持っていけば済むということでもないという状況でございますので申し加えます。以上です。

(武輪委員長)

ありがとうございます。

それでは次に移ります。そのほか、事務局から報告事項はありますか。

#### 【「第20回図書館を使った調べる学習コンクール（全国）」観光庁長官賞、優良賞、受賞について】

(藤田図書館長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ありがとうございました。

毎年出していただいて、全国規模の賞に入賞する兄弟は素晴らしいと感じております。再三継続という言葉が出てきますが、継続していろんなことを続けるすごいお二人だと感心しております。

それではほかにございますか。

#### 【「第3回教育の広場はちのへ」来場者アンケート結果について】

(木村 教育指導課長 資料に基づき説明)

(武輪委員長)

ありがとうございます。

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

私から1点、最後お聞きしたいことがあります。業務報告の中にはなかったのですが、是川縄文館の方々に聞きたいと思います。昨年の秋に新聞で見たものですが、学会奨励賞受賞ということで、論文をお書き

になった宇部さんと村木さんのお二人がこちらにいらっしゃるのですけれども、東京大学と是川縄文館との共同研究による市内でのボーリング調査ということで、貝の年代測定、精度についての論文が学会で受賞ということが載っており、1度お聞きしたいと思っていました。今ここで簡単に説明ができなければ次の定例会でもいいですし、また機会があればよろしいのですが、学会で奨励賞を受賞されたわけなので、皆さんにどういうものであったのかということをお聞かせする時間があったらいいと思っておりました。これに関していかがでしょうか。

(宇部 是川縄文館参事)

東京大学と縄文館との共同研究ということで、平成23年に開館してから事業として手掛けてきておりました。東大メンバーと縄文館の学芸員の人たちが一緒になってさまざまフィールド調査をしております。それをまとめて、日本第四紀学会という学会が国内にあるのですけれども、その中で奨励賞という賞をいただくことができました。基本的にこれは大学側の一木さんという方が中心になってとりまとめたものです。我々はそのお手伝いをしたという意味合いのものです。基本的に長七谷地貝塚などの貝の分析を行って、遺跡の年代の精度が増すような分析を彼女に取りまとめていただいたということが評価されたということになります。

(武輪委員長)

ありがとうございました。皆様方がいろんな賞を受賞されたり、様々な研究をして賞をいただいておりますので、是非広く皆さんにも知っていただきたいと思います。

閉 会

(武輪委員長)

それではこれをもちまして平成29年1月の教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後3時03分閉会)